

# 真言宗御室派の寺宝と四国・徳島

真言宗の宗祖である空海が若き日に阿波国大瀧嶽などで修行を行った聖地四国。阿波国（現在の徳島県）には弘法大師が開創したとされる四国遍路をはじめ、多くの真言宗寺院が所在することでも知られています。その真言宗の宗派のひとつに仁和寺（京都市右京区）を総本山とする御室派があります。

この展覧会では、徳島県内に所在する御室派寺院が守り伝えてきた阿波徳島ゆかりの寺宝の数々をご紹介します。さらに初公開の資料などから仁和寺が江戸時代における四国遍路の普及に深く関わっていたことをご紹介します。



両界曼荼羅（胎藏界） 江戸時代 三好市・葦寺蔵



聖徳寺縁起（部分） 延宝4年（1747） 阿波市・聖徳寺蔵



四国遍禮名所図会 寛政12年（1800） 久保宣明氏蔵



弘法大師像（真言八祖のうち） 江戸時代 三好市・葦寺蔵



徳島県指定文化財 十三仏図 室町時代 つるぎ町・東福寺蔵



つるぎ町指定文化財 慈仏残欠（如来形） 鎌倉時代 つるぎ町・東福寺蔵



久富通江守画像 江戸時代 神山町・吉祥院蔵



蜂須賀宗鎮位牌 安永9年（1760） 徳島市・西願寺蔵



御室成就山八十八ヶ所絵図 江戸時代 個人蔵